

ビジネスリーダーの情報武装マガジン

Aug. 2008

8 | 1

8月1日号

# 先見経済

Management & Economic Information SENKEN KEIZAI Since1938

特集

## 企業家の「養生」学

～日本を築いたビジネスリーダーの養生術～

適応科学研究所所長・創業者研究家 相川信彦

シリーズ・この国の未来

「精神的な障害を持つ人にも

罪を犯すに至るプロセスが必ずあるはず。

そうした背景を理解せずに、事件の真相解明はできない」

東北福祉大学せんだんホスピタル医局長・教授 滝井泰孝

聞き手／国民政治研究会理事長 田中克人

短期集中連載・第3回

### 徹底研究「確定拠出年金」って何だ!?

中小企業診断士、1級企業年金総合プランナー 細入徹

好評連載

団塊・シニア市場のゆくえ 村田裕之

時論 政治評論家 板垣英憲

前号に引き続き、今号も龍村仁監督のお話をお届けします。「地球交響曲（ガイアシンゾ オニー）」をライフワークとして撮り続ける龍村監督。監督は、その映画を通して、「自然の摂理に学ぶことが必要だ」というメッセージを世に投げかけています。なぜ、そうしたことを訴えるのか、その理由を伺います。



映画監督

## 龍村 仁

聞き手／山口哲史 株式会社プロ・アクティブ代表

Photo/高取剛充

# 生命には、 苦難のときに進化する 自然治癒力がある

いま、求められている激しい変化

## 自然界の摂理に学び 大きな流れを知る

山口 龍村監督が経営者やビジネスマンに伝えたいメッセージは何ですか。

龍村 私は偉そうなことを言える立場ではありませんが、21世紀のグローバルな状態をつくるための企業活動や政治活動、科学技術の進歩、技術文明の方向性を考えるベースには、やはり「自分が大いなる生命のつながりの中で生かされていることの実感」が必要だと考えています。別に神様のなことではなくていいんですが、いままでは関係ないと思われていた人間活動のバックグラウンドに必要なことだと思います。

山口 しかし、ビジネスのような現実的なところでは、「自分の意志や力だ」という意識が強いため、受け入れられないところがあります。

龍村 もちろん、私のような監督業は、文化的な仕事だから言えるだけで、経済的に成り立っていけないと思われる気持ちは分からなくもありません。けれども、私の経験で言うと、映画の仕事でも循環するのに3、4年はかかるけども経済的に成り立つんです。例えば「ひとコマスポンサー」運動（前号参照）で言えば、循環して返済するのに3年かかりました。1本につき1億円かかるのであれば、回収するのに3年かかることになる。だから、1年決算で考える



## 【ホスト】山口哲史 Yamaguchi Tetsushi

1961年兵庫県生まれ。関西学院大学商学部卒業後、リクルートなどを経て90年、現(株)プロ・アクティブの前身のフィールド・アクティブを設立。竹100%でできた繊維など自然でピュアなエネルギーを活用した「人を自然に輝かせる(ラディアンズ)」力のある健康、美容商品の企画・販売を手掛ける。社内外ともに「ガッツさん」の愛称で親しまれている。  
<http://www.pro-active.co.jp>

と、1年目が大赤字になります。

**山口** 企業では1年目の赤字を乗り越えられるのかという問題があります。

**龍村** それを私の場合は、乗り越えられないならば、どうしたら耐えられるのかを考えるんです。活動に必要なエネルギーやお金の循環が8割あると倒れない——これが私の考え方。映画で言うと、必要経費の8割ぐらいが循環すれば、倒れないで進められる。こうしたことからも、昔の人の教えはすごいと思いますね。腹八分目が一番健康にいい、と言ったのですから。実に本当のことだと感じます。

**山口** なるほど。

**龍村** 自然界の摂理は、サイクルの単位がそれぞれ違います。1カ月で巡るものもあれば、1年、100年、1000年、1億年ぐらいの単位で循環しているものもある。

**山口** 私自身は、成長を数値で表すことに違和感を覚えることがあります。当然、成長は大事なことです。農家の人が「何%の成長率を目指す」とは言いません。3年かけて循環するならば、3年待てば十分な実がなっている循環ができる。でも、1年決算で赤字だからダメだと考えてしまう。本来、自然界のサイクルでは、時間次第で芽生えてくるものもあるのに、人間の意志で

決めたルールでしか評価しないところに無理が生じるのではないのでしょうか。

**龍村** それに、「物質的なエネルギーは、ためるものではなく通すものである」ということも重要です。物質的なエネルギーは、一時的に企業や人間の体の中にとどまる必要もあるから、とどめること自体は悪いことではない。しかし、自分の物としてためてしまうと病気になることもある。だから、エネルギーは通すべきなんです。こうした哲学のようなものも大切です。

**山口** ためるのではなく、フローですね。

**龍村** 体のことを考えれば分かります。

**山口** メタボが問題になっていますからね。

**龍村** メタボはため過ぎでしょう(笑)。

**山口** 一緒ですね(笑)。

**龍村** もちろん、それぞれの営みの単位で物質エネルギーの大きさは違います。しかし基本的な摂理は、生命体が生き続けるために必要な物質エネルギーを自分の持ち物と考えたときに、何か違ってしまふ。そうした大きな流れがあるのではないのでしょうか。ほかにも少し前までは、一億総中流のように、大きな力で同じものを皆に与え、人々に幸せになってもらおうという考え方が経済を支えていました。でも、これからは、そうはいかない。100人いれば100通り違うことが起こる。それにどう対応するかという、マスプロ発想と個別対応の発想がビジネスでは当たり前のようになりつつあります。こうした発想も自然界の

多様な摂理に合っていることだと思います。

**山口** これらを実感するために、何かを達成したら自分の努力でできたという感覚と、何かに生かされているという感覚を経験することが必要なんです。

## 人類の営みの背後には自然界の摂理がある

**山口** 前号の「やり切った後は明け渡す」理論のように、龍村監督は自然界の摂理に意識を置かれていますね。

**龍村** こういうことは、少し自然界の成り立ちを見ていると分かることです。自然界では、それぞれが精一杯生きようと思っただけで、それを尽くしているのだけれども、単独で成立するのではなく、すべてがつながった中で何が生まれている。したがって、結果に対して、こうありたい、生き延びたいと皆が思っている、どうにもならないことがある。ですから、ベストを尽くしながら結果を思い煩わない有り様は、実はガアの自然のシステムそのものの摂理です。

**山口** 「目の前のことを一生懸命にやっていたらいい」と思えないのは、やはり先のことを考えるからですね。

**龍村** 上手くいかないときに人のせいだと思ふ、大失敗して裸一貫になったときにチャンスだと思ふか、もうダメだと思ふて終わってしまうのか——こうしたことは、自然の摂理をどう感じているかで違が出てくる

ためるのではなくフローにする